

平成29年度

専門学校 静岡工科自動車大学校

学校評価書（学校関係者評価）



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 岡部 剛

静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 服部 智子

(1) 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。育成人材像は科ごとに企業ニーズを満たすよう見直し、指導目標の統一を行っている。	4	現在、学校及び科毎のディプロマ・ポリシー、リキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを策定済み。近々HP上で公開する。	国際オートメカニック科は一期生が卒業したばかりで、企業ニーズに不透明な部分がある。定期的にポリシーを見直して改良してほしい。また、全科ともに誰にも分かりやすく、リアリティがあって卒業時や5年後の人物像のイメージが湧くポリシーにすると良い。
・学校における職業教育の特色は何か	自動車エンジニアとして基礎・基本である知識・技術を確実に身に付けるような教育を豊富な種類の教材と多様な学科構成により行っている。	4	自動車エンジニアとして「安心、安全」を意識した行動が身に付くように教育を徹底していく。	安心、安全は企業でも力を入れていることなので指導を強化してほしい。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期経営計画を作成（28年度から30年度までの3年間）し、これを基に2020年に向け工科ビジョンを策定、展開している。	4	自動車テクノロジーの高度化等、社会環境の変化に対応できる人材を育成するための教育課程及び教育設備を整備していく。	特に問題なし。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	各学科の教育目標、育成人材像については学生便覧に明示し、その目標に向かって人材育成に努めている。 学生便覧は学校ホームページにて周知している。	4	現在の取り組みを継続推進。 現在3つのポリシーを策定中であり、30年度中に公開、運用を予定している。	特に問題なし。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	3	年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け成果ある教育活動に発展させたい。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

経営理念～教育理念～中期経営計画～工科ビジョン～当年度目標及び方針と一貫した体系的な教育体制があり、また、本年度は学校及び科毎のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを策定した。HP等を活用しこれらを企業、学校関係者、保護者及び学生へと広く広報していく。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。	4	経営環境の急変な対応については速やかに行動したい。 また、教職員の情報アンテナを高くし、問題の共有化を推進したい。	特に問題なし。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。 実施時期も明確に策定し、計画どおりに実行している。	4	経営環境の変化により実施を見直すことや時期がずれることがあるが、先見性を磨き精度を高めていきたい。	特に問題なし。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知している。 意思決定機能も組織図により明確であり、機能しているが、運用面で多少問題が生じることもあり、徹底が必要である。	3	縦、横の連携が悪く、意思や行動の統制が上手くいかない場面もあった。 改善策として、決裁後の起案文書、議事録等を全職員に配信しているが、今後はその効果を検証していく。	教員のメンタル面のケア対応は整備されている。教員のメンタルに異常があると学生にも問題が発生する可能性があるため、教員の健康状態には留意してほしい。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。教職員の待遇についても、有期契約職員の正規雇用と教特手当アップなどの整備を行っている。	4	教職員の待遇の向上が図られたこと及び信賞必罰の人事を明確に打ち出すことより、教職員のモチベーションが向上し、教育活動の充実に繋がることを期待する。	特に問題なし。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	3	一部、コミュニケーション不足による課の連携が悪い場面が散見されたが、管理職及びリーダーの職責や役割を明確にし、研修やOJTによる意識の変革を促したい。	特に問題なし。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	3	運用面において職員の意識やモラルに問題が見られるケースがあり、規程に関しては都度周知徹底を図りたい。	特に問題なし。

<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	<p>文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。また日々の教育活動もホームページや SNS で公開している。</p>	<p>4</p>	<p>学校として詳細な情報を公開しているが、悪用される可能性がある情報も含まれているため、今後、公開情報の精査をしていく。</p>	<p>特に問題なし。</p>
<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	<p>教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、今年度は通常経費に関する電子決裁システムを構築し、業務の効率化を図った。</p>	<p>4</p>	<p>情報管理システムは、管理者による内製であるが、管理者が不在時、故障対応等に支障を来すことが想定される。複数の職員による情報の共有化を図ること及び、その人材育成が急務である。</p>	<p>特に問題なし。</p>

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学校運営に関してはきちんと各種規程が定められた上で、そのルールに則り運営をしている。毎年度学校及び課毎の目標と方針を定め、その成果については HP で公開している。概ね順調な学校運営であると認識しているが、教育活動全般の様子を外部へわかりやすく発信することを強化して、学校関係者に学校の中身をもっと知ってもらおうよう努めたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。	特に問題なし。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教務課の目標として、教育到達レベルを提示しており、教職員は目標とする育成人材像に近づくよう教育活動を展開している。H29年度はH28年度に定めた各科の育成人材像についての見直しを行い、各教室に掲示した。	4	育成人材像及び育成目標について明確化しているが、実際の教育にどう反映させるかが課題である。卒業後5～7年先のあるべき姿を明確化した育成目標としたい。	特に問題なし。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が監督官庁であるため指定基準が決められており、不定期ではあるが基準内でカリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないようにしている。	3	定期的に見直しを行ってきているが、現在のカリキュラムになってから数年が経っているため、検証及び改訂を検討していきたい。	数年先の教育態勢と企業ニーズ等を先読みしたカリキュラムにする必要がある。自動車の進化によって教える内容が増えすぎているので、削除する項目も必要である。また、基礎部分は必須科目とし、それ以上は選択科目制にしてレベル等に合わせて受講できるようにすることも検討してほしい。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題である。また、学校としてのキャリア教育プログラムを構築する必要がある。	特に問題なし。

・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している（5月、8月の2回） その中で、シラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善したい。また企業からの意見により実施している、整備作業アンケートの結果を踏まえ、授業に反映していきたい。	特に問題なし。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、大型自動車実習を実施しておりシラバスにも明記している。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に課題を感じていない。	特に問題なし。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。	3	アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。今年度は目標であるA項目76%以上を達成したが、昨年度を若干下回ってしまった。	昨年度75%であった評価目標を教育レベルの向上を目指し76%にしたことは評価できる。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。	特に問題なし。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧（教務規定掲載）を全員に配布し周知徹底している。	4	学生便覧（教務規定掲載）に明記されており、特に課題を感じていない。	特に問題なし。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	3	昨年度は資格合格率、取得率とも成績が向上したが、今年度も同様の成績を修めることができた。しかし資格によっては合格率、取得率が上がらないものもある。また、年度により成績に大きな差が生じないように実施要領を定めたい。	特に問題なし。

・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。また一級取得職員2名の採用があった為、若干ではあるが取得率は向上した。	3	職員の一級整備士取得率が他校に比べると高くない。朝礼や職員会議等において啓発を行い、教職員の意識改革を行いたい。	特に問題なし。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	今年度も1年間、企業から社員を兼務教員として本校に出向させていただき、実践的な教育を提供する取り組みを実施した。	3	社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。今後は他の企業とも連携し優れた教職員の確保に努めたい。	企業からの出向社員は現場目線で考えるので現実的なアドバイスができています。安全面の指導もきちんとしていて大きな戦力となっている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。新技術に関しても企業と連携し、研修を実施した。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	昨年度から引き続き、指導力向上研修を実施したが、指導の統一を図るためにも来年度も継続したい。また、外部研修に関しては、より積極的に実施していきたい。	特に問題なし。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。	3	特に課題を感じていない。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

自動車整備科及び自動車システム工学科のカリキュラムは策定してから5年が経った。この間に教科書の改訂や多数の自動車新技術の実用化があり、カリキュラムの中身を再検討する必要性が出てきた。さらには国際オートメカニック科を新設したため、実習場の効率的な使用についても再考する必要が生じた。これらを踏まえて、自動車整備科及び自動車システム工学科のカリキュラムについては大幅な見直しを実施する。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。本年度も就職内定率は100%である。	4	学生の希望が特定の企業に集中する傾向がある。多数の企業に人材を送り出すという観点からは好ましい状態ではないので、希望者が少ない企業を学生と結びつける方策も検討する。	特に問題なし。
・資格取得率の向上が図られているか	教員は各資格に対する合格率の目標を個人の業績目標としている。本年度の合格率は危険物、ソーシャル検定上級、職業訓練指導員、日本語能力検定N1が低下したが、ソーシャル検定中級と日本語能力検定N2が向上した。	2	過去に出題された問題やそれに類する問題についての正解率は高いが、新傾向の問題についての対応力が低い。成果の上がる学習方法を再検討する必要がある。	不合格者のフォローをきちんと実施してほしい。教科書ベースの問題を作り解かせることで教科書の全ページにわたりわからない部分が無いようにしてほしい。一級整備士のアドバンテージをもっとPRし基礎学力の高い学生を集めることと、問題を学生に作らせるなど主体性ある試みも導入すべきである。 成績把握を早めにするなど早期の対応に期待する。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。担当が面談等を行い、対応が困難な場合は主任、教務課長が指導を実施する。	3	昨年度に比べ29年度1月末では退学者が減少した。経済的理由や健康面等のやむを得ない理由による退学が多いが、年度末に近づくにつれ学業不振から進路変更を申し出る学生が増えてくるので、モチベーションを下げない指導を行う必要がある。	特に問題なし。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。静岡スバル自動車様の卒業生がラリーメカニックとして活躍し、その報告会を行った。	3	卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にし、情報入手の機会を多くすることが必要である。	特に問題なし。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	今年度も企業実習や技術セミナーでOBが技術指導を行うことが多く、卒業生の成長を感じることができた。	3	定期的に「将来を見据えて学生をいかに育てるべきかの企業ニーズ」を調査する必要がある。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

教育成果の中でも一級自動車整備士試験の合格率を向上させることは重要な課題である。前回の試験問題の内容を検証し、現教育で欠落あるいは不足がある部分の見極めを行い、力を入れるべき部分や整理すべき部分を洗い出し、資格試験対策授業の手法についても全面的に見直しを行う必要がある。また、同時に教育を実施する教員の資質向上を図る策も検討し実施する。

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。今年度からは電子求人システムを導入し本校学生ならば誰もが自由に閲覧できる。このシステムでは企業研究や企業比較、採用試験エントリーまで行うことができる。	4	電子求人システムの導入で多くの求人情報を閲覧することができる環境が整った。しかし、各学生の希望企業や活動状況が掲示板で閲覧できた昨年度とは違うため、企業間の応募人数の偏りの発生を把握するのが採用試験直前となってしまった。新システム導入前の様々な手法も併用し改善したい。	特に問題なし。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が対応する。更にそれを科の主任がカバーする。またセクハラに関する相談担当者も常駐している。女性教員や保健室、入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	3	学生の相談体制について、相談内容によっては単独よりも複数の教職員が関わった方が、問題のとらえ方が深く厚くなるケースもあるため、教職員間の情報共有を密にしている。また、入試・進路課という新体制になったことで入試から就職までを一貫して指導できる体制が整った。	特に問題なし。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	入学金の減免、授業料の減免、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	諸制度の範囲で授業計画をスリム化することで、余暇時間を増やし、アルバイトに従事できる時間を少しでも多く設ける。日本人に限られていた企業奨学金制度を優秀な留学生に対しても拡大する計画である。	特に問題なし。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	常勤の看護師の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用（傷病の申し出）状況、薬の使用状況は毎日管理され、心の健康（メンタル相談）にも配慮している。	3	看護師が勤務していない放課後の時間における対応に課題があり、現状では現場にいる教職員の判断に任せている。	特に問題なし。

・課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ活動などの課外活動は授業時間数が多い中でも支援できていると判断している。顧問である職員の負担は大きい、大きな不満を持つこともなく積極的な活動、支援を行っている。	3	学生に対してのクラブ活動支援はできているが、休日の活動はクラブ顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。	特に問題なし。
・学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮を持ち遠隔地出身者を優先的に入寮させており、支援は行われている。また、寮以外の下宿生には1万円/月の支援金を供与している。	4	1人暮らしの補助が増加しており、学校収益を圧迫しているが、可能な限り継続したい。また、指定校に在籍し指定校入試基準を満たした合格者には5千円/月の通学費支援を行う。	特に問題なし。
・保護者と適切に連携しているか	年1回実施される後援会総会後に各クラスでクラス担任と保護者との懇談や個別面談を実施し、保護者授業参観会や個別進路相談会、また必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に連絡報告し、学生状況に関する相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	特に問題なし。
・卒業生への支援体制はあるか	定期的同窓会役員会を実施している。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	3	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援の準備はあるが、申し出が少ない。さらなるHPの利用を検討したい。	特に問題なし。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	入試・進路課が窓口となり企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	さらに関連企業団体が気軽に企業ニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくか工夫が必要である。	特に問題なし。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介を実施している。さらに自動車整備の模擬授業も展開している。	3	私たち専門学校が「高校生に対して職業教育を実施すること」を、高校側が望むような手段をさらに提案し推進したい。	高校との連携を推進してほしい。特に高校の担任レベルの教員に工科を知ってもらい取組を行うとよい。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学生への支援体制は概ね備わっているが、少子化や若者の自動車離れの影響で学生募集に苦心している。本校の教育についての広報活動を様々な手法で推進していく必要がある。まずは、高校に対して従来にはない多面的な角度からアプローチすることを検討する。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入しており、良い教育環境が整いつつある。また企業からの教材車両等の提供が増加している。	3	施設面では物理的容量が限界に近づいているので、学科の再編に伴い計画的に整備する。 老朽化によるトイレやエアコンの修理を実施したが、トイレについてはさらなる補修が必要であり、次年度実施する。	特に問題なし。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められている。その他の学科もインターンシップを8月初旬に設定し、実施した。海外研修は自動車システム工学科4年生がドイツ、自動車整備科2年生がセブ、バリなどの3か所で実施した。	3	インターンシップは学生の就職内定先に依頼しているが、企業の受入れが必ずしも好意的ではないケースがある。インターンシップを経験することで得られる成果を企業へきちんと伝え、インターンシップの必要性を理解してもらう必要がある。	特に問題なし。
・防災に対する体制は整備されているか	H30.1.1 に災害対策対応マニュアルを改訂し南海トラフ地震への対応、テロ・ミサイルへの対応を盛り込んだ。教職員への地震災害時の連絡体制については緊急連絡掲示板等を活用することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しておりまた、ホームページ上でも緊急時の対応策を掲載し確認できる体制としている。	3	国や県から南海トラフ地震に対する具体的な防災の対応が示されていない。ガイドラインが発表された時点で災害対応マニュアルを改訂する。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

施設に関しては本年度、規模の大きなトイレの改修工事を実施する。設備についても8月にシャシダイナモテスターの設置工事を計画している。インターンシップや海外研修旅行も実施予定である。災害対応マニュアルについては南海トラフ地震のガイドラインが明らかになりしだい作成予定である。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学生募集活動は、適正に行われているか	業界の整備士不足に対応できるように市場分析を的確に行った上で募集活動を行っている。また、企業推薦制度は利用者 80 人程度まで成長している。	3	今後の改善として、整備士希望者拡大に向けた広報活動と保護者に対する経済的なアドバイス等の支援が必要と感じている。また、市場を拡大する必要があるため県外も視野に入れた戦略を展開したい。	特に問題なし。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	3	ホームページの「活動紹介」を利用し教育活動を分かりやすく伝えられている。本校の各種情報も継続的に発信したい。	生の資格試験結果数字や教育活動の様子をHPで公開していることは賛同できる。さらにメディアを利用した広報活動も検討するとよい。
・学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定した。	企業奨学制度を知らない保護者がいるので、告知の方法に工夫を凝らしてほしい。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

HPやSNSを活用し、学校の中身（生の姿）を多くの人に見せることで、本校に対してもっと親近感を持っていただけるように工夫をしている。資格試験等の合格率データも、例え不名誉な結果であっても正確に情報公開することで学校関係者の信頼を得ることができるよう努める。

(8) 財務

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	本校の直近3ヵ年の財務状況は事業活動収支差額比率が約12%を確保できていることを考慮すれば、本校の財務基盤は良好と判断できる。	2	施設老朽化による改修費の増額、消費税増税等経費の増加要素が増えているため、効率的な予算執行が求められる。	特に問題なし。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	計画的な予算の立案を近年実施、及び定着しているため、予算の内容については妥当なものになっている。	特に問題なし。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	4	特に課題を感じていない。	特に問題なし。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	内規に定められており特に課題を感じていない。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

施設老朽化に伴う改修工事に多額の費用が必要な状況となっている上に全国的な学生数の減少の影響もあるため、なるべく経費を節減するよう学校を挙げて節約に努めていく。次年度は消費税の増税もあることから、水、電気、ガス等のエネルギーの無駄遣いの削除にはより一層注力していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。	4	設置基準、法令等の教職員への啓発活動として、H28年度から業務知識確認試験を実施している。	特に問題なし。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	3	平成29年度に学園の個人情報保護規程が改定され、本校の現状が規定を満たしているかの確認と、運用している本校の内規に整合しているかの調査を実施した。	特に問題なし。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価も定着し、毎年見直しをしている。年度末には自己評価について所属長による改善指示をしており、その内容について学校関係者評価による検証も行っている。	4	毎年度、定期的に確認することが義務化されており、PDCAサイクルを有効に回すことができている。	特に問題なし。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特に課題を感じていない。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

法令等の遵守状況は良好であると認識している。また、自己点検を行い学校関係者の評価を聞き、それを次年度の教育に活かすサイクルができている。学園全体の個人情報保護規程の改訂があったため、必要であれば内規の見直しも検討したい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験学習は積極的に受け入れており本年度は5校18名の実績であった。また、環境問題に取り組みエコアクション21の認証を取得・継続するなど、積極的な取り組みをしている。	3	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として積極的に取り組んでいきたい。	特に問題なし。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	三保清掃活動のボランティア活動を計画し8月は5人の学生が参加した。11月にも同内容の計画をしたが雨天中止となった。	4	時代の要請に合ったボランティア活動になるよう内容を検討したい。	特に問題なし。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	県車体整備組合対象の「車体整備士講習」、ロータスクラブ対象の「HV・EV講座」並びに「故障診断器講座」を実施した。	4	依頼があった講習・講座のみ実施した。これ以上増やすことは本来の教育業務に支障が出る恐れがあるので、次年度も今年と同じ実施容量とする。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

平成30年度は5月だけで合計30名の職場体験の依頼があり、昨年度に比べ大幅に増えている。本来の教育活動に支障のない範囲で、なるべく多数の中学生を受け入れたい。ボランティア活動や対外教育(講習・講座)については昨年度と同じボリュームの引き受けを予定している。

(1 1) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	留学生の在籍が年々増加していることと、業界の慢性的な整備士不足に対応するため、留学生の受け入れ拡大を目的とした国際オートメカニク科を設置している。	4	就職先を確保することが課題であるが、今後はさらに業界に対して外国人整備士の必要性を訴えていく必要がある。また整備士資格取得向上に向け、カリキュラムを変更し、他校との差別化をしていく。	特に問題なし。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、毎年名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として認定されている。	4	近年外国人に対する在留管理の方法が変化しているため、留学制度研修会等に参加し、適切に対応していく必要がある。	特に問題なし。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に入学前、入学後の留学生担当職員を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。本年度は留学生全員に対して日本語能力検定 N2 以上を目標に学習指導を行った。	3	留学生の退学者は3名だが、学習面特に日本語能力が原因となっていることが多いので、個々の学生に対応した学習指導体制の強化を図りたい。	特に問題なし。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	産業能率大学との連携により、一部の授業を大学の科目として履修することが可能となった。	3	科目履修生制度等の導入の可否について検討したい。	特に問題なし。

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

自動車整備業界を目指す日本人の若者が減る中で、企業からの留学生採用ニーズも高まっているため、国際オートメカニクの定員の増員を行う。自動車整備士試験を受けるにあたり問題となるのは日本語の読解力であり、日本語能力を高める教育にも重点を置いていく。また、入社後に企業の中で通常の日本語会話はできる程度の実力を身に付けさせる。